

マス
ス
カ
レ
ー
ド
が
日
本
に
来
襲
し
た

世界コスプレは静か



ドイツ代表。「魔法騎士レイアース」のコスプレで「ゆずれない願い」を歌い踊った



中国代表の「サムライスピリッツ」。パフォーマンスでは一番優れていたのではないかと



グループ優勝したフランス代表の三人。「東京ミュウミュウ」で「チュウ夏パーティー」

WORLD S T A

いま海外には日本の2倍以上のコスプレイヤーがいる

愛知万博「世界コスプレサミット」に参加した国は日本を含め七ヶ国。われわれ日本人の感覚からすると、海外にそれだけのコスプレイヤーがいるのかと疑問になる。しかしいるのだ。それも相当数。ヨーロッパ全体で日本のコスプレイヤーとほぼ同数。人口の多いアメリカ、中国を合わせると、日本のコスプレイヤーの倍以上が海外にいることになる。コスプレを愛好する者は日本人よりも外国人の方が多い。

ここで勘違いしたはならないのが、海外のコスプレイヤーは日本人のそれを真似ているのではないこと。海外のコスプレイヤーは日本人コスプレ

一のことをほとんど知らない。せいぜいネットで見るくらい。同じ作品を見て、登場キャラに思い入り、それを自ら具現化したくなるという、コスプレの動機は誰も変わるところではない。しかし、彼らのコスプレパフォーマンスは日本人にとって奇異に映る。同じ動機であるはずなのになぜだろう？

カメラの技術が圧倒的に発達している日本。写真の技術レベルは最高峰である。巷でもコンパクトカメラを学生でも持つようになり、それがデジカメに進化していった。写真という媒体が手軽に、そしてハイクオリティに手に入る日本では、コスプレも写真という枠の中で進化していった。

Photo 山田敬典 Report 編集部

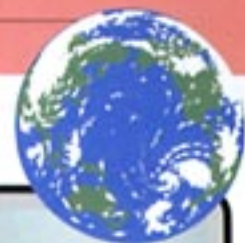
新聞やテレビでは一般ニュースとして取り上げられた「世界コスプレサミット」。われわれ日本のレイヤーは、どこか違和感を感じたのではないだろうか。3000人からの観客を前に舞台上で歌い、踊り、演じる異国の人たち。自分たちとは違うコスプレの表現。コスプレの世界基準とは何か。今、コスプレの新しい表現のカタチが見えてきた。



！東日本代表の優勝たくみと特別賞。剣の出来、ウィッグの作りには目を驚かすものがあった。惹きつけたいシーンがメインの寸劇も完成されており、海外メディアからは高い評価を受けていた。日本Web代表の優勝。「魔法先生ネギま！」の明石裕奈で、観客を巻き込め振り付けとパフォーマンスを披露。西日本代表のミヤビ、ナマリ、あゆみで「トップをねらえ2」。あゆみはCOSMODE8号の表紙にも登場した。

個人優勝したイタリア代表のジョルシア・ベッキーニ。2週間「テイルマン」のシレーヌで会場がどよめいた。舞台パフォーマンスならぬ衣装だ。





ドイツ・スペイン・アメリカ・中国



ドイツ代表はハガレンの「Ready Steady Go」をギター、ベース、ボーカルで熱唱



日本Web代表のバービー・月野と多田カイエセーラムーンに会場の子供たちは大喜び

ら動へ...

D A R D



「ソウルキャリバー2」でグラウンドチャンピオンとなったフランス代表。アニメ・ゲームの聖地日本への往復航空券、彼女たちにとってはサイコーのプレゼントなのだ



なまじ写真の技術が発達しただけ日本のコスプレは「静止した」のか

しかし海外のコスプレイヤー違う。カメラや写真は高価で、クオリティを追求するのは難しい。写真を表現の場にできなかった彼らが求めた所はライブ。今この場でコスプレを表現すること。それには、ただ衣装を着て立っているだけではダメだ。演じること...それが彼らのコスプレの表現になった。

なまじ写真技術が発達しただけ、日本のコスプレは文字通り「止まった」とも言えるかもしれない。隣の席に居合わせたオランダ人記者は言った。「日本人の写真好きは世界でも有名だ」

写真で魅せるコスプレがある。COSMODEだってそう。しかしそれだけじゃないのも事実。カメラを仕舞った時、コスプレの新しい楽しみ方が見つかるかもしれない。



ダンパとはまた違った熱気でステージ上にエールを送る日本のレイヤーたち



フランス代表の三人。中央のフランチェスカは以前、COSMODEに手紙を寄せてくれた

COSMODE取材班は一路ヨーロッパへ

個人優勝イタリア Cosplayer 宅を訪問

取材班は世界コスプレサミットの一月後、ヨーロッパに飛んだ。個人部門で見事優勝したジョルジュア・ベッキーニに会うためだ。

彼女の住む町はイタリアの中都市パルマ。近くの空港の航空会社で地上勤務をしながら大学に通っている。小学生の頃から日本のアニメが大好きで、漫画や同人誌も揃っていたという。コスプレに目覚めたのは、同人誌即売会などあるミラノやルッカのイベントに行ってから。みんな動機は一緒。そして家具職人であるお父さんの工房で、誰にも真似のできない衣装を製作。名古屋で見せた映画「デビルマン」のシリーヌで会場をわかせた。



クローゼットの中はウィッグでいっぱい。家具職人のお父さんが作ってくれた羽は組立式で、被っても意外と安定している。

日本のアニメやゲームの設定資料集でいっぱいの本棚



どの国でもコスプレイヤーの素顔は変わらない。アニメオタクな部屋に取材陣もビックリ。近くの公民館では彼女の手作りの衣装も展示され、オタク話に花が咲く

FRANCE PARIS FESTIVAL BD DELCORT -Harajuku 2005- 9月17日~18日

仏で出版を手がけるDELCORT社主催の屋外イベント。公園の所かここに同人誌やアニメグッズが並ぶ。土日によって行われるコスプレコンテストはなんと橋上で披露する(下)。



緑に囲まれた公園でのどかな感じ。しかしコスコンの審査員は橋の反対側から狭い視線を送って、点数を書き込んでいた

ITALY PARMA COS PARTY PARMA 9月23日

ちょっとした文化祭っぽいイベント。イタリアではこのようなアットホームなイベントが各町で開かれている。屋外では布を貼り即席の自然光スタジオが出現。同人誌も展示販売される。



郊外の会場にはほとんどがクルマで乗り付ける。中にはすでにコスプレしている人も。日本ではありえない光景だった